KAIRYUDO
小・中学校 英語教育情報誌

Sunshine Letter Connect

Vol.04
2026 NOVEMBER

巻頭インタビュー

英語がつないだ、私の未来

関根麻里

「英語は、世界とつながることば。
学び、使うことで人と出会い、
自分との『違い』に気づくことで、
世界がもっと広がります。」



特集

「全国学力・学習状況調査」を指導と評価にどう生かすか

本資料は「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

INTERVIEW

── 英語がつないだ、私の未来

英語は、世界とつながることば。
学び、使うことで人と出会い、自分との「違い」に
気づくことで、世界がもっと広がります。

タレント

関根麻里（せきねまり）



Profile

1984年東京都生まれ。幼稚園からインターナショナルスクールで学び、2006年に米国・エマーソン大学を首席で卒業後、芸能界デビュー。テレビやラジオ、CMなど幅広く活躍するほか、得意の英語を生かし、海外の俳優やアーティストへのインタビューも数多く担当。絵本の翻訳なども手掛け、言葉や文化を通したコミュニケーションの魅力を発信している。

明るいキャラクターとさわやかな笑顔で、タレントとして多方面で活躍する関根麻里さん。語学番組への出演や、海外著名人への英語インタビューも行う関根さんに、「英語を学ぶこと」について、ご自身の経験を交えてお話を伺いました。

── 英語との出合いは、インターナショナルスクールの幼稚園に通い始めた4歳のときだそうですね。

「はい。もちろん最初は英語を話すことはできませんでしたが、『一緒に遊ぼう』『トイレはどこ？』といった必要な言葉から、コミュニケーションを通して少しずつ覚えていきました。友だちと遊ぶことはすごく楽しかったし、放課後に先生と1対1で英語を教えてもらう時間も、私にとっては『先生を独り占めできる！』という楽しい時間でした。英語と『楽しい気持ち』が結びついたから、どんどん吸収できたのだと思います。」

──では、英語を学習するうえで、あまり苦労はしなかったのでしょうか。

「文法を学ぶようになってからは、やはり覚えることの多さに苦労しました。当時はテストのために何とかこなしているような状況でしたが、過去の自分に何か伝えられるとしたら、『ちゃんと勉強しなさい』と言いたいですね（笑）。

でも、英語に限らず外国語を学ぶときにいちばん必要なのは『話したい』『伝えたい』という気持ちだと思います。間違えたら恥ずかしい、発音が悪くて伝わらなかったらどうしようと思って、話すこと自体をあきらめてしまうのは本当にもったいない。日本の小中学生がいま学んでいる英語の知識だけでも、英語話者とは十分にコミュニケーションを取ることができます。ですから、自信をもって、知っている単語を使いながら、まず話してみてほしいです。それに、もし外国の人が少し間違った日本語で話しかけてきても、その間違いを責めようとは思いませんよね。前後の文脈から『こういうことかな？』と理解しようとするはず。コミュニケーションは話す人と聞く人、お互いが歩み寄って成立するものですから。」



留学先で出会った友人たちと（上・次ページ下）

卒業式での一コマ

── 18歳で、より広い環境で英語で学び続けたいと、アメリカ・ボストンのエマーソン大学へ進学されました。そこではどんな経験をされましたか。

「留学の動機には、単純に一人暮らしをしてみたい、という気持ちもありましたね。留学してみて、言葉の壁を感じることはなかったのですが、生活することで初めて文化や価値観の違いを感じる場面がありました。ある日、アメリカ人の友人が私のバッグを『それかわいいね！』と褒めてくれました。日本の感覚でつい『いや、そんなことないよ！』と謙遜すると、『私がかわいいと言っているのに、私の意見を否定するの？』と指摘されたのです。『こういうときは“Thank you”でいいのよ』って。ほかにも、『コンビニに寄ってもいい？』と聞いたら、『なぜ私の許可が必要なの？』と言われたことも。」

── 日本では自然な気遣いが、別の文化では否定していると捉えられたり、自分の意志がないと思われたりして、思いもよらない受け取られ方をしてしまうこともあるのですね。

「それまで私は、日本の文化を前提とした英語を話していたのだと思います。言葉だけではなく、その背景にある文化も知ることが大切なのだと実感しました。自分では気づかなかったことをきちんと指摘してくれる友人に出会えたのは、本当にありがたかったですね。

また留学中には、ブラジル出身のルームメイトとの生活にもカルチャーショックを受けました。すごく社交的な子で、部屋のドアをいつも開けていたんです。それで部屋には常にたくさんの人がいて、『一人で過ごす時間がない！』とストレスを感じました。でも『ここは一人で落ち着くための場所ではなくて、みんなが集う場所なんだ』と考え方を変えたんです。静かに過ごしたければ、図書館やカフェ、公園へ行けばいい。そう捉えることで、部屋はむしろ新しい友人と出会える大切な場所になりました。」

── 環境に合わせて考え方を変えるのは、とても難しいことだと思います。なぜそうできたのでしょうか。

「人は、自分とは違っていて当たり前なんですよね。違うことが悪いわけではないし、相手のすべてを受け入れなくてもいい。日本人同士でも同じだと思います。そうした考え方は、『違いがある』ことが当たり前の環境で過ごした経験から得ることができた大切な学びです。」

── 現在は、インタビューなどのお仕事でも英語を使って活躍されています。AI翻訳などが発達している現在ですが、英語を話せてよかったと感じることはありますか？

「自分の言葉で伝えられること、相手の言葉を直接理解できることには大きな価値があると感じています。映画『The Lady アウンサンスーチー ひき裂かれた愛』の取材で、マレーシア出身の俳優ミシェル・ヨーさん、フランス人のリュック・ベッソン監督と私の3人で話す機会がありました。3人の母語はそれぞれ違うのですが、英語を使うことで直接コミュニケーションを図ることができました。共通語としての英語の力を改めて『すごいな』と感じた経験でした。通訳の方を介したり、AI翻訳を使ったりすれば、言葉の意味は伝わると思います。しかし、直接同じ言葉で話せば、ニュアンスの違いによる誤解は生まれにくくなりますね。そして本当の意味で理解し合うために大切なのは、言葉の背景にある文化や価値観まで知ること。相手をもっと知るために、これからも学び続けたいと思います。」

── インタビューに限らず、司会や絵本の翻訳など、さまざまな分野で活躍されていてもなお学び続けたいとおっしゃっていることに、はっとさせられました。

「仕事に限らず、人生はずっと学びの連続だと思っています。子育てもそうで、毎日『思いどおりにいかないのが当たり前だぞ』と教えられています。一生学び続ける、と言われると大変だと感じるかもしれないけれど、新しい情報に触れたり、人と出会ったりすることは、自分の視野を広げることにつながります。いくつになっても人は成長し続けられるからこそ、視野を広くもって、柔軟に『自分とは違う』文化や考えを知っていくことが大切なのだと思います。」

── 英語を学ぶ小・中学生や、英語を指導する先生方へのメッセージはありますか？

「英語は自分自身の世界を広げ、他者を理解するためのとても優秀なツールです。だからこそ、若い世代にはこのツールを存分に活用してほしいですね。自分の言葉が相手に伝わったと感じた瞬間は、本当にうれしいものです。そこから友だちができたり、選択肢が増えたりします。海外に興味があれば、旅行でも留学でもいいので、ぜひ実際にいろいろな文化に触れてみてほしいですね。先生方には、そんな英語の魅力を、これからもどんどん伝えてほしいと思っています。」



「全国学力・学習状況調査」を指導と評価にどう生かすか

全国の児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析して教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために毎年実施されている「全国学力・学習状況調査」。今年度は3年ぶりに中学3年生を対象にした英語の調査が行われました。その調査結果と分析をもとに、今号のテーマ「評価の生かし方」に沿ってお話を伺いました。

教えてくれたのは…
贄田（にえだ） 悠（ゆう） 先生
国立教育政策研究所
教育課程研究センター
研究開発部 学力調査官
（併）教育課程調査官
（専門：外国語科教育〈英語〉）



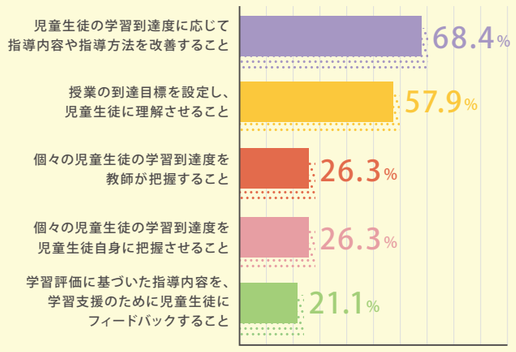
読者参加型 アンケート企画

先生のホンネリポート

現行の学習指導要領で改めて強調された「指導と評価の一体化」。実態アンケート調査では、評価を児童生徒の学習状況把握、学習や指導の改善に役立てていると回答した先生が多数。一方、個々の児童生徒へのフィードバックに課題を感じているとのお声も寄せられました。

質問 1

学習評価を実践する際に大切にしているものを教えてください。（複数回答可）



質問 2

評価に関する悩みや苦労はありますか。

「指導と評価の一体化」について、具体的にどのように進めればよいのか悩んでいます。
（小学校（専科） 30代 茨城県）

パフォーマンステストの評価方法に悩んでいます。評価基準の設定や、児童生徒の頑張りをどのように評価につなげるか、難しさを感じています。
（中学校 50代 埼玉県）

学習の振り返りやフィードバックの効果的な方法を模索しています。
（中学校 30代 群馬県）

Q. 調査結果の概要を教えてください。

A. 「聞くこと」「読むこと」では、語彙や文法などを実際のコミュニケーションにおいて活用する「知識・技能」を問う問題、必要な情報を捉える問題で一定の成果が見られました。一方で、話や文章の全体を踏まえて概要や要点を捉えることには課題が見られ、情報を精査して書き手や話し手が「最も伝えたいこと」を判断することなどに難しさを感じている傾向がうかがえます。

「書くこと」「話すこと」では、「知識・技能」を問う問題でも課題が見られました。また、まとまりのある内容を書いたり話したりする際、自分の考えを伝えることはできているのですが、その根拠となる理由を十分に加えられていない傾向が表れました。後者は令和5年度調査でも見られた課題です。また、自分の考えや気持ちを表現する問題に比べ、I, you以外の主語を使って、事実などを客観的に説明する問題では正答率が低い傾向がありました。

これらの傾向から、「知識・技能」を目的や場面、状況などに応じて活用し、事実と考えを整理して理解したり、事実などを伝えたりすることに課題があると考えられます。

Q. 顕在化した課題を解決し、学習の改善を図るには？

A. 英語10（1）（図1）を例にしましょう。これは、インターネットの使用に関する短い意見文を読み、要点を捉える問題で、正答率は48.1%でした。「令和8年度全国学力・学習状況調査報告書【中学校／英語】」p.78の解答類型と反応率を詳しく見ると、書き手の主張を支える具体例を「最も伝えたいこと」と誤って捉えた生徒が多いことがわかります。このことから、学習の改善を図るためには、英語の意見文

（1）【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、＜解答欄＞の１から４までの中から１つ選びなさい。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

＜解答欄＞

○ 1 Many junior high school students use the internet to play games.
○ 2 Junior high school students should use the internet for learning more often.
○ 3 There are many good videos for learning English.
○ 4 We can find the meaning of an English word quickly.

図１：英語10（1）

Note 令和８年度調査における変更点

● 中学校英語４技能をCBT方式で実施

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の4技能すべてで1人1台端末を使ったCBT方式を導入。

メリット
1 解答データをビッグデータとして蓄積できる
2 アニメーション機能や録音機能などを使用して、多様な出題・解答方法が可能になる
3 調査用紙の配布・回収などの負担を軽減できる　など

● IRTの導入（※）

IRTとは、問題の難易度等の特性を踏まえ、児童生徒の学力を共通の尺度で測定・推定する統計理論。中学校英語では、本年度調査の4技能の全国平均を基準とし、学校（自治体）ごとの結果を500を基準とした「IRTスコア」で、生徒個人の結果を5段階の「IRTバンド」で示しています。

メリット
1 各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる
2 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる
3 学力の経年変化を把握できる

※IRTは令和7年度の中学校理科より導入された。

の構成の一つとして、文章が「主張」とそれを支える「理由や具体例」で構成されていることを理解し、その上で“I think ...” や “We should ...”などの「考えを伝える表現」や、”For example, ...”などの「具体例を表す表現」に着目して「文と文の関係」を捉えさせる指導が大切であると考えられます。生徒ごとに算出したIRTスコアを5段階に区切った「IRTバンド」を踏まえ、領域や問題、誤答類型まで深く掘り下げると、学習状況に応じた指導の手立てがより具体的になると思います。



Q.IRT分析の見方や活用方法の例を具体的に教えてください。

A. 学力層ごとの解答傾向に基づき、生徒がどこでつまずいているのかを分析するために活用されるのが、IRTバンド別類型割合グラフ（G-P分析図）です。英語10（1）では、バンド1・2の生徒の3割以上が誤答である解答類型3を、2割以上が解答類型4を、また、1割以上が解答類型1を選択しています（図２）。このことは、この層の生徒の多くが「現状」や「具体例」を「主張」と誤って捉えている可能性を示唆しています。指導に当たっては、英語で書かれた意見文の基本的な構成を理解させることが大切であると考えられます。バンド3では、3割以上の生徒が4を選択していることから、「考えを示す表現」や「具体例を導く表現」に着目して「文と文との関係を捉え、文章の構造を理解させる」指導が大切であると思われます。その際、意見文を読んで書き手が「最も伝えたいこと」と判断した根拠を生徒同士で説明し合う活動を行うことも有効だと思います。

先述の「報告書」では、「学習指導に当たって」や「授業アイディア例」で分析結果に基づいた指導改善について詳しく紹介しています。ご活用いただければ幸いです。

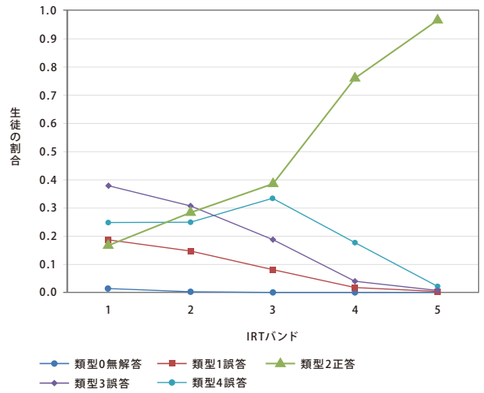


図２：1～5のIRTバンドごとに、各解答類型に該当する生徒の割合を示している

Q.生徒質問調査において注目すべきことは？

A. 今回、英語に関する質問調査において、「まとまりのある文章を書く問題」と「聞いたことについて自分の考えとその理由を話す問題」の回答状況を質問項目に設定しました。その両方で「内容は思い浮かんだが、それを表す英語が思い浮かばなかった」という回答が最も多く見られました。このことから、学習改善のためには、言語活動を行う際に、生徒が表現の仕方がわからなかったり、表現に誤りがあったりした場合、どのような表現がふさわしいかを学級全体で共有したり、必要に応じて言語材料について理解したり練習したりする活動を充実させることが大切であると考えられます。

なお、「聞いたことについて話す問題」については、「聞いたことが理解できなかった」と回答をした生徒が9.2%いることが明らかになっています。教科に関する調査のみならず、質問調査の結果も確認し、生徒の課題の把握と指導改善につなげていただけたらと期待しています。

Q.今回、調査データの活用に関する資料・情報の充実度が増しています。その意図は？

A. 国立教育政策研究所では、毎年、全国学力・学習状況調査について、結果の公表とともに、学習指導の改善・充実に向けた説明会を開催し、資料を研究所のウェブサイトに公開しています。今年度は、すべての教科の説明資料の冒頭に「調査結果から見えた自校の課題やその課題を解決するためにはどのような取組が必要なのかを学校全体で共有して、組織的に学習指導の改善・充実が図られることを期待しています」というメッセージを入れました。調査の目的を改めて確認し、平均IRTスコアや正答率などの結果だけでなく、個々の問題や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析したり、先に述べたように質問調査と合わせて総合的に分析したりすることを通じて、生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげていただきたいという願いを込めています。

例えば「自分の考えを理由とともに表現すること」は、英語に限らず他教科と連携して取り組むことができる課題です。各学校においては、調査結果に関するデータの活用を調査対象である中学3年生や中学校英語科だけにとどめず、学校全体で共有し、自校全体の学習改善のためにはどのような取組が必要なのか、学年や教科の枠を超えて話し合っていただくことが大切であると考えます。その際は、公表している調査問題にも目を通し、実際に問題に取り組んでいただけると、より適切な改善の手立てにつながると思います。

また、教育委員会とも連携し、校内のみならず地域の小学校や高校の先生とも情報を共有して、小中高を通した資質・能力の育成に生かしたり、地域の優れた取組を学校間で共有したりすることも大切だと考えます。

最後に

先生方へのメッセージをお願いします。

まず、実施に関して、各教育委員会や各学校の先生方には準備の段階から多大な御協力をいただいたことに心から感謝申し上げます。

国立教育政策研究所では、令和8年度調査に関連するさまざまな資料を公式ウェブサイトで公開しています。結果分析にかかる研修資料動画やデータ活用に関する動画も視聴していただけますので、ご自身やご勤務校での研修に活用していただけたらと思います。「報告書」には問題の音声スクリプトや文章についての解説や授業アイディア例も掲載していますので、先生方が授業づくりをされる際や、定期テストやパフォーマンステストを作成する際にも参考にしていただけたらと思います。なお、調査問題については、過去の問題や関連する資料などを参照しやすくするために「教科調査問題アーカイブ」を公開しています。あわせてご覧ください。

全国学力・学習状況調査と学校で行われる定期テストは目的が異なりますが、どちらも結果から生徒の学習状況を捉え、改善の手立てを考える点は共通しています。評価結果から生徒の学習状況を把握し、学習指導を見直し、再び生徒の活動や学習の状況を見取る。このサイクルによって、生徒の学習状況に応じた授業づくりにつなげ、生徒に育成すべき資質・能力を身に付けさせることが大切です。研修等の機会を生かして調査問題や分析結果等を取り上げ、学習指導の改善・充実に向けたメッセージを届けていきたいと考えています。

- 令和8年度 全国学力・学習状況調査報告書【中学校 英語】
  https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/middle_eng.html
- 令和8年度 全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会 説明資料及び動画資料
  https://www.nier.go.jp/kaihatsu/setsumeikai/r08setsumeikai/index.html



実践ポスト 小学校

話すこと」を支える形成的評価の工夫



• Profile

安 絵里（やす えり）

茨城県ひたちなか市立佐野小学校主幹教諭

平成29年度茨城県英語教員リーダー育成事業によりハワイ大学で研修を受け、外国語学習における動機付けと主体的なコミュニケーションを促す授業づくりに取り組んでいる。

Introduction

茨城県では、毎年「英語プレゼンテーションフォーラム」※を開催するなど、実践的な英語コミュニケーション能力の育成を重視しています。私はその趣旨の実現に向けた授業づくりに力を注いでいます。以前勤務していた中学校では、すべての生徒が即興的に英語で話すことができる授業の実現を目指して実践を重ねていました。現在は小学校において、「話すこと[発表]・[やり取り]」（以下、「話すこと」）を中心とした言語活動を通して、児童の挑戦を認め励ましながら資質・能力を育成する授業づくりに取り組んでいます。

自己効力感を高める中間指導「Advice Time」

「話すこと」を中心とした授業で大切にしているのは、「中間指導」です。中間指導では、誤りを指摘して学習の改善を図るだけでなく、勇気を出して英語で伝えようとする姿勢や挑戦を価値付け、励ますことが重要であると考えています。そこで、形成的評価の場として「Advice Time」を位置づけ、ALTと連携しながら、児童一人ひとりに短時間でも声をかけるようにしています。**よさや工夫、努力をその場で認める**ことで、児童は安心して英語を使うことができるようになります。このような中間指導を意図的・継続的に行うことで、児童は自己効力感を高め、自ら進んで英語で伝えようとする態度が育まれると考えています。



図1：教師や児童同士がアドバイスをし合いながら学びを深める「Advice Time」の様子

出典：文部科学省公式YouTubeチャンネル「mextchannel」
Junior Sunshine を用いた授業実践の様子はこちらからご覧いただけます

課題を捉え、成長を促す動画の活用

児童が自らの学びを振り返り、改善につなげられるよう、**自分の発話を動画で撮影・視聴する**活動を取り入れています。高学年になると、児童は自分を客観視できるようになります。自分の発話を視聴することで「伝えたいことが十分に伝わっているか」「付け加えたい内容はないか」などと振り返り、発話を改善したり再構築したりするようになります。この活動は、児童が自らの学習を調整する力を育む上で有効であると考えています。さらに、**児童同士で動画を見せ合い、よりよい表現にするための助言を出し合う**ことで、協働的な学びの充実も図っています。

また、児童が撮影した動画は提出させるようにしています（図2）。動画は、児童一人ひとりの成長の過程や思考の変容を捉えることのできる貴重な記録です。動画を通して、児童が粘り強く学習に取り組んでいる様子や発話内容がどのように深まり広がっているかを把握することができます。その見取りを基に、「Advice Time」と同様に、**一人ひとりに応じたフィードバック**を行っています（図3）。短いコメントでも児童の励みとなり、学習意欲の向上につながっています。時には**提出された動画を学級全体で共有**し、「さらによくするためにはどうすればよいか」をともに考える場を設けています。このような交流は、助言する側・助言を受ける側の双方にとって学びとなります。



図2：児童が提出した動画を確認できる管理画面

図3：動画に対して個別にフィードバックを行う様子

計画的な話題、言語材料の再活用

単元構想は、指導の見通しをもつ上で重要です。一方で、一つの単元の中だけで児童がターゲット表現を活用できるようにしようという考えにとらわれてしまうおそれがあります。児童が新たに学習した語句や表現を実際のコミュニケーションの中で活用できるようになるためには、**繰り返し活用する時間を十分に確保すること**が必要です。そこで、同じ話題や既習表現を計画的に再活用する場を設定しています。

まずは、自分の好きなことや得意なことなど、児童自身や身近なことについて重点的に扱い、それらが自信をもって伝えられるようになった段階で、行ってみたい国や将来の夢、学校生活などへと話題を広げていきます。また、同じ話題であっても、既習の語句や表現を用いて**理由や感想を付け加えたり、新たな語句や表現を取り入れたりする**ことで、表現の幅を広げ、質を高められるよう工夫しています。慣れ親しんだ話題を繰り返し扱うことは、児童が安心して英語で伝え合える環境づくりにもつながっています。

さらに、児童の興味・関心を高めるために、学習した語句や表現が使われている外国のアニメやCMなどを活用し、学んだことが実際の社会や日常生活の中で生きて働くことに気づけるようにしています。

主体的な学習者を育てるための評価

個別最適な学びや多様性の包摂を推進する上でも、児童一人ひとりの学習状況を目標とする姿に照らして的確に見取り、適切なフィードバックを行うことを重視しています。フィードバックを通して児童が自らの学びをメタ認知し、学習を調整することで、資質・能力を育み、自ら次の学びの方向性を見出すことができると考えています。

また、**一人ひとりの学びを丁寧に見取り、認め励ます**ことを基盤とした形成的評価を継続的に行うことは、児童の学習状況を多面的・継続的に把握することにつながります。その積み重ねが、総括的評価の信頼性を支える基盤になると考えています。

今後も、一人ひとりの児童を「一人の学習者」として尊重し、その挑戦や努力を認め励ましながら、主体的に学び続ける児童の育成を目指して授業改善に取り組んでいきます。

※英語プレゼンテーションフォーラム　自分の考えや気持ちを積極的に発信する力を高めるとともに、多様な他者と交流することで外国語によるコミュニケーション能力の育成を目指し、プレゼンテーションと「話すこと[やり取り]」を一体的に扱う。3人一組で一つの話題について英語でやり取りを行い、郡市大会、県北・県南などのエリア大会、県大会へと進む「英語インタラクティブフォーラム」の後継事業。

実践ポスト 中学校

評価を生かした「学ぶ喜び」を生み出す授業



• Profile

草嶋 利昌（くさじま としあき）

静岡県伊東市立宇佐美中学校　教諭

中学校教諭として18年間勤務。令和3年度より「学校教育目標の具現化」をテーマとして教育論文を2本執筆。実践的英語力の向上とともに英語教育を通した人間形成にも力を入れている。

Introduction

伊東市立宇佐美中学校では「学びを喜ぶ生徒」を学校教育目標とし、「協働、挑戦、成長を楽しむ」生徒の育成を追求しています。筆者は前任校から一貫して「指導と評価の一体化」を通じて生徒が「学びの喜び」を味わえる授業づくりに努めてきました。本稿では、生徒が自らの変容を実感し、主体的に学びを楽しむための評価の工夫について、即興的なやり取りを支える「表現力を高める指導」の実践事例とともにご紹介します。

自分の成長を可視化する Small Talkと自己評価の日常化

生徒が「学びの喜び」を感じる第一歩は、自分の英語に自信をもつことです。そこで、毎時の帯活動として行っているSmall Talkでは、やり取りを継続する力を育成する工夫として「アンサープラス3」を導入しました。これは、①相手への反応　②質問への回答　③関連情報の追加または自発的質問　をリズムよく行う取組です。

ここでは、毎時の「自己評価」が極めて重要な役割を果たします。生徒は活動後すぐに「協働・挑戦・成長シート」（図1）へ「『アンサープラス3』の自己評価」「自発的質問の数」「日本語を使わずに話し続けた秒数」の3項目を記録します。「昨日の自分」を越えようとする「挑戦」を質問数や秒数などの数値で可視化することで、生徒は自らの成長を実感できます。この取組について、アンケートでは95%以上の生徒が「話す力を伸ばすために効果的だった」と回答しており、日々の小さな成長の自覚が学びの原動力となっているようです。こうした継続的なSmall Talkと自己評価によって、今では毎日1分間、当たり前のように英語だけで会話できる生徒が増え、「3分間以上話せる」という生徒も少なくありません。

「話すこと」を中心とした活動や単元末のパフォーマンス活動においても、この「アンサープラス3」と同じ評価項目を設定しました。それにより、多くの生徒が活動へのモチベーションを高くもち続けられるようになりました。

☆Small Talk☆　※Answer Plus 3 はA～Dで自己評価　How long No Japanese は1秒～60秒で記録　How many questions には質問した回数を明記

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
AnswerPlus3（反応・回答・質問）										
How many questions?										
How long No Japanese										

図1:「協働・挑戦・成長シート」におけるSmall Talkの自己評価欄

「目的・場面・状況」を明示した単元構想と自己調整力を育成する工夫

思考力、判断力、表現力等を養うため、単元末には具体的な「目的・場面・状況」を設定したパフォーマンス活動を設定しています。例えば3年生では、「修学旅行先で、和食に興味がある外国人観光客に飲食店を紹介しよう」、「誕生日が近づいているホストマザーへのサプライズプレゼントをホストファザーに相談しよう」など、具体的かつ切実な場面や状況を設定し、生徒の「伝えたい」という意欲を引き出しています。

Sunshine English Course 2年生PROGRAM 7「Unique Animals」を扱う際には、教科書本文の内容と関連させ、「来年4月に開館する水族館の、外国人向けの生き物ガイドを作ることができる」という単元目標を設定しました。生徒たちは相手意識や目的意識をもって、本文の動物たちに関する説明を参考にしながら、ライティング活動に取り組んでいました。

単元の導入時には、ルーブリックを示した「協働・挑戦・成長シート」（図2）を配布します。ルーブリックには3段階でそれぞれの段階に到達した姿を具体的に示し、生徒にとって学習改善の指標となり、学習の見通しをもつことができるようにしています。さらに、単元の中盤（全9時間のうち5時目など）には「中間自己評価」を行う時間を設けています。そこでは、それまでの活動で「できたこと」「できなかったこと」を整理し、次に向けた改善策を記述させることで、生徒自身の自己調整力を高めます。このように、振り返りの枠組みを細分化したことで、課題を的確に把握し、具体的な改善策について試行錯誤を重ねる生徒が劇的に増加しました。

【PROGRAM 1 評価基準】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a の姿	アンサープラス３（反応＋回答＋もう一言）の流れで会話ができる。	外国人観光客に対して、相手の予定、もしくは興味のあることをふまえておすすめの食事を提案できる。	PROGRAM 1 の目標や自己目標の達成に向けて自己の課題を的確に把握し、具体的な改善策をもとに試行錯誤しながら粘り強く学習している。
b の姿	外国人観光客とのやり取りを２分間できる。	外国人観光客に対しておすすめのプランを提案できる。	PROGRAM 1 の目標や自己目標を達成しようと粘り強く学習を進めようとしている。
c の姿	b に至っていない状態	b に至っていない状態	b に至っていない状態

☆PROGRAM 1　②～③の反省☆

【②できたこと・成長を感じたこと】	【②次への課題・挑戦したいこと】
【③できたこと・成長を感じたこと】	【③次への課題・挑戦したいこと】

図2:「協働・挑戦・成長シート」におけるルーブリックと振り返り欄

相互評価と教師の「即時フィードバック」による変容

評価の主体を教師だけに限定せず、「クラスメートからの評価」も取り入れています。ペア活動終了後には、生徒同士が単元目標に沿った視点について3段階で評価し、一言アドバイスをワークシートに記入し合います。第三者の視点から自分のよさを知ることは、生徒にとって大きな自信となり、振り返りでは「友だちからの評価で自信がついた」という前向きな記述が見られました。

また、単元末のパフォーマンス活動終了直後には、教師がルーブリックに基づいた評価を生徒の振り返りシートに書き入れ、具体的な称賛とアドバイスを伝えるようにしています（図3）。この即時的で詳細なフィードバックにより、生徒の中に「もっと話したい」という向上心が芽生えるようになりました。生徒の振り返りには「先生に褒められて自信がついた」「英語が話せると面白い」といった記述が見られ、年度当初に感じられた英語に対する心理的な壁が取り払われ、学びそのものを楽しむ姿へと変容しています。

☆PROGRAM 1　⑤～⑥の反省☆

【⑤できたこと・成長を感じたこと】	【⑤次への課題・挑戦したいこと】
【5．5中間チェック：単元の目標達成へ向けて自分を振り返ろう！】	
【知識・技能】（ A ・ B ・ C ・ D ）	【思考・判断・表現】（ A ・ B ・ C ・ D ）
【⑥できたこと・成長を感じたこと】	【⑥次への課題・挑戦したいこと】

Partner's Name			
内容が伝わったか	◎ ・ ○ ・ △	◎ ・ ○ ・ △	◎ ・ ○ ・ △
一言アドバイス コメントなど			

☆PROGRAM 1 まとめの活動④☆

【自分が成長したと感じたこと、うれしかったこと】	【PROGRAM　2へ向けて・挑戦したいこと】

☆PROGRAM 1　最終評価☆

知識・技能	思・判・表	主体的態度

図3:「協働・挑戦・成長シート」における振り返り・中間評価・教師からの評価（一部抜粋）

おわりに

4月の取組当初、英語に苦手意識があると回答していた生徒は半数以上いました。3か月後には、「以前より自信をもって英語を話せている」と回答した生徒が約9割にも達しました。評価を「格付け」ではなく、生徒が自身の「成長」を自覚するためのツールとして活用することで、教室には「学びを喜ぶ」空気が醸成されます。今後も英語教育と人間教育の両輪を大切に、生徒が「学ぶ喜び」を追求し続けられる授業づくりに取り組んでいきます。

誰もが輝ける英語の授業づくり

～特別支援の観点から～

Vol.4 最終回

その視覚情報、どのように捉えている？

大学生80名に、好きな映画や書籍のジャンルを尋ねるとともに、図に示すとおり、さまざまなフォントで示された作品名の中で最も好むものはどれかを質問しました。その回答を集計したところ、ファンタジー、推理小説、ホラー、ノンフィクションなど、好きなジャンルによって好むフォントが分かれる傾向が見られるという興味深い結果が得られました。このように、私たちは無意識のうちにフォントから影響を受けています。

ところで、フォントは学習にも少なからず影響を与えます。例えば単語学習をする際には、判読性（単語としての認知しやすさ）が重要です。また長文読解の際には、可読性（文の読み続けやすさ）が重要です。図を再度見てみましょう。文字が瞬時に判読できるものとそうでないもの、見続けると負担を感じるものがあると思います。読みにくさを感じさせるフォントは学習上の障害となり得るため、初学者や視覚認知に特性がある学習者に提示する場合には、使用するフォントに特に留意が必要です。近年、UD（ユニバーサルデザイン）フォントを採用している教科書が増えているように、学習者がスムーズに視覚情報を処理できるように配慮することは、学習の遅れを防ぐ一つの大切な手立てと言えます。

これまで4号にわたって、私自身が一人の英語教員として日々留意したいことをお伝えしました。本稿が、先生方の「誰もが輝ける英語の授業づくり」のためのヒントとなれば幸いです。

図：さまざまなフォントを使った作品名の提示例



profile



いいじま むつみ
飯島 睦美

群馬大学　理事・副学長（教育・評価担当）

英国バーミンガム大学修士。
大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位満期取得退学。

column

隣の英語ビト Vol.4

仕事で英語を活用するさまざまな職業の方に、「英語の学び方」や「英語を身につけてよかったこと」をインタビューする本コーナー。第４回に登場するのは、翻訳家・通訳案内士など多彩な分野で活躍する平間久美子さんです。

英語が私の世界を大きく広げてくれた



イラスト：大嶋奈都子

ひらまくみこ
平間久美子さん（翻訳家・通訳案内士・写真家）

翻訳家として映画・ドラマの字幕や吹き替え、アニメーション映画『SING／シング』や『T2　トレインスポッティング』のサウンドトラック対訳などを手がける。さらに通訳案内士として外国人観光客のガイドを務めるほか、写真家としても活動中。

幼い頃に聞いた空港の英語アナウンス。それが平間久美子さんの英語との出会いでした。

「その響きに、『外国の音』が漏れ聞こえてくるようなワクワク感があったんです。この言葉がわかるようになりたいと思って、翌日には辞書とラジオの英語講座のテキストを買いに行きました。」

現在は字幕翻訳者、通訳案内士、写真家として活躍する平間さんですが、英語を学ぶ中で壁にぶつかることもありました。大学時代は毎日3時間を目標に英語を「聞く」努力をし、「読む」「書く」の勉強にも力を入れました。しかし「話す」練習が足りず、苦手意識を持つように……。

しかし、英会話講師になるための研修が転機となります。「英語の音声に合わせて発声する『オーバーラッピング』や『シャドーイング』を徹底したことで、頭の中にある英語を口から自然に出せるようになりました。学生時代の自分に会えるなら、声に出して練習することの大切さを伝えたいですね。」

ニューヨーク滞在中には、現地で出会った友人との交流が新たな道を開きました。その縁がきっかけとなり、「あなたはガイドの仕事に向いている」と勧められたことが、現在の活動につながっています。さらに海外で出会った人々との交流を通して、多様な価値観にも触れてきました。「今」と「ここ」を大切にするという考え方に感銘を受け、ものの見方が変わったとのこと。

翻訳、通訳案内、写真撮影。一見異なる仕事ですが、平間さんにとってはすべて「見せることで伝える仕事」だといいます。相手の気持ちを決めつけず、一人ひとりと向き合うこと、そして何より相手や翻訳する作品に対して「大好き！」という気持ちをもつことを大切にしていると語ってくれました。

子どもの頃のちょっとした興味から、英語に携わる人生を歩んでこられた平間さんにとって、英語とはどのようなものでしょうか。

「英語を学ぶことで、得られる情報が増え、直接コミュニケーションを取れる人も増えます。英語は私にとって、自分の世界を広げ、新しい人や考え方と出会うための大切なツールなのだと思います。」



読者参加型

アンケート企画

先生のホンネリポート

学校現場での課題や工夫など、英語教育に携わる先生方の
ホンネを共有するアンケート企画をお届けします。

▶ 次号の特集テーマは「次期学習指導要領」！ そこで……

今回のアンケートテーマはこちら！

次期学習指導要領、先生方の関心は？

期待や疑問、関心のあることなど、先生方のホンネをお聞かせください！
回答は匿名で集計し、次号に掲載させていただくことがあります。

▶▶ アンケートにご協力ください！

1分で回答完了！
二次元コードから今すぐ参加！

新刊

「情報管理室の先生」が書いた
学校情報セキュリティの教科書

SNS・AI時代を生きる 先生のための

情報セキュリティハンドブック

☑ 小中高すべての先生必読！

GIGAスクールや生成AIの登場で激変する学校現場。いまや情報セキュリティは専門家だけでなく、教職員全員に必須の素養です。本書は日常の「うっかり」を防ぐチェックリスト、SNSやAIの正しいルール作り、万が一の初動対応まで、即座に役立つ現場の知恵を厳選しています。
一人の意識変革が、情報に強い安心な学校を創る。デジタル時代の教育を支える、小中学校、高等学校の先生必読の内容です。



「これ、やっちゃダメ？」に、もう迷わない。

☑ 授業にAIは使ってもいい？
☑ 個人情報ってどう守る？
☑ USBメモリは使ってもいい？

生成AI、SNSとの安全な関わり方がわかる！

開隆堂

著 横山 成彦
大阪学院大学高等学校
情報管理室長／株式会社SFC
監修 柿崎 淑郎
東海大学 情報通信学部 教授

- 四六判／128ページ
- 定価 2,000円（本体1,818円）

詳しくはこちらから！

お求めは全国の書店またはオンライン書店にて。

小・中学校 英語教育情報誌
Sunshine Letter Connect
非売品
Vol.04

2026年11月2日印刷　2026年11月9日発行　編集兼発行人 井口廣之　デザイン ありがとう株式会社
発行所　開隆堂出版株式会社　〒113-8608　東京都文京区向丘1-13-1
☎(03)5684-6121（営業）、5684-6118（販売）、5684-6115（編集）　https://www.kairyudo.co.jp/

開隆堂出版株式会社
本社　〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎ 03-5684-6111

北海道支社　〒060-0042　北海道札幌市中央区大通西11-4-21 52山京ビル7階　☎ 011-231-0403
東北支社　〒983-0852　宮城県仙台市宮城野区榴岡3-10-7 サンライン第66ビル5階　☎ 022-742-1213
名古屋支社　〒461-0004　愛知県名古屋市東区葵1-15-18 オフィスサンナゴヤ9階　☎ 052-908-5190
大阪支社　〒550-0013　大阪府大阪市西区新町2-10-16　☎ 06-6531-5782
九州支社　〒810-0075　福岡県福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階　☎ 092-733-0174